

中長期目標 (学校ビジョン)	校訓である「共生」「自立」「感謝」を基調とし、「暖かき人間関係」「高い志と生き抜く力」「自己への挑戦」を大切にし社会に貢献出来る人材の育成を目指す。
-------------------	--

今年度の重点目標	1. 個々に応じた基礎学力の向上・資格の取得 2. 規律ある生活態度の育成・徹底 3. 望ましい人間関係の構築 4. キャリア教育の推進と充実・早期の進路決定
----------	--

評価基準 A: ほぼ達成 (90%程度) B: 概ね達成 (70%程度) C: まだ不十分 (50%程度) D: 方策の見直し (30%以下)			
---	--	--	--

年度当初				評価結果(10月)				最終評価		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方法	評価	目標の達成状況	次年度引継ぎ事項等
個々に応じた基礎学力の向上・資格の取得	○個々に応じた学習意欲の喚起 ○授業の質の更なる向上 ○個別学習室(勉強室)の生徒の学力の向上及び、授業や指導方法の改善を図る。 ○資格取得率の向上	○不登校傾向等により学習の空白時間を有する生徒も多く、基礎学力の定着(主に英語・数学)が充分とはいえない。 ○職員間による授業の質に差がある。 ○教室にどうしても入れない生徒数名が個別学習室で学習しているが計画的な質の高い指導が出来ていない。 ○全校生徒が受検する検定試験(漢字検定44%・パソコン検定52%)の合格率である。	○学ぶこと、分かることの喜びを知り、意欲的・自立的・計画的な学習展開が図れる。 ○授業の質向上のために、職員の自己研鑽が日々行われ、定期的に研究授業を実施し、指導力の平均値が上がっている。 ○自己の目標の達成のために意欲的・自立的・計画的に学習する姿が見られる。 ○漢字検定合格率が50%以上、パソコン検定合格率が55%以上かつ各種検定の上位級(準2級以上)の合格者数を増やす。	○生徒にとって分かりやすく魅力ある授業づくりに努め、基礎学力の向上を図る。特に1年生は習熟度別の時間を設け英語・数学と苦手な分野を克服し、自信をつける。 ○自己研鑽の評価として様々な資格に挑戦する。研究授業をすることで授業に対する職員の意識を高め、授業の質を高める。 ○個別学習スケジュールを定め、学習のきめ細かい指導を徹底し、学力を引き上げる。 ○資格を取得する意義を浸透させ、意欲を高め、反復練習(表による見える化)によって更に合格率を高める。	○習熟度別の時間を設定することで個々の苦手分野を把握することができた。 ○研究授業はできていない。職員の自己研鑽として各種資格を取得するために取り組んでいる。 ○良好 ○資格取得に対する意義を理解させ、意欲を持って取り組む生徒が増えてきた。現状としてパソコン検定54%、漢字検定35.4%の合格率であった。	C	○習熟度別学習についてはBASICテキストを使用し、更なる基礎を固める。 ○今後、研究授業を計画的に行っていく。 ○継続して取り組んでいく。 課題により、反復練習させる機会を与え、資格取得に結び付ける。			
規律ある生活態度の育成・徹底	○学校の規律やルールへの遵守、公共の場でのマナー向上 ○積極的な挨拶の定着を図る。 ○清掃活動の習慣化校舎内の清掃等、環境整備が十分に行われている。	○身だしなみを整えられない生徒・時間を守れない生徒が一部見られる。 ○自発的に挨拶できる生徒が多くなく、習慣化していない。 ○掃除を人任せにする生徒が一部見られる。	○社会で通用する身だしなみと生活習慣・時間管理が身に付いている。 ○挨拶をする習慣が身についている。 ○自らが率先し毎日清掃活動を行っている。	○月に一度、服装検査を実施することで「身だしなみ」の確認を行う。時間を自身で管理し5分前行動する意識を高める。登下校時、毎日職員が由良駅まで行き、公共施設でのマナーの向上を図っていく。 ○職員から挨拶を元々よくすることにより円滑なコミュニケーションを図る。 ○日ごろの清掃活動の取り組み指導、それに合わせて施設やモノを大切に使用する意識を持たせる。	○服装では一部の生徒に注意することが多い。登校時、イヤホンをしてくる生徒はいなくなった。時間を意識して行動する生徒が増えた。 ○あいさつについては徐々にできてきているが、まだまだ自主的とまではいかない。 ○率先して清掃に取り組む生徒が多くない。	B	○登校時、全校集会等で身だしなみのチェックを行う。 ○継続して、職員から挨拶を元々よくすることにより円滑なコミュニケーションを図る。 ○適正な清掃場所を割り当てし、個々に責任を持たせる。			
望ましい人間関係の構築	○信頼し合える関係作り ○クラスでの仲間作り、学校全体での仲間作り	○他人に対し壁を作り、心を開くことが出来ない生徒が見られる。 ○学年を超えた仲間意識が希薄になっている。	○生徒同士、生徒・保護者と職員同士が認め合い何でも話せる雰囲気がある。 ○全校生徒が仲良く、楽しく、協力し合いながら生活している。	○日頃の会話から否定しないことを心がけ、お互いがお互いのことを認め合える雰囲気を作り、定期的な保護者との情報交換に務める。 ○少人数クラスを活かし生徒への目配りと授業担任との情報交換により生徒の人間関係を把握する。また、学校行事・選択授業・体育において学年を越えて全校で協力して活動していく。	○良好。ソフトなタベの参加者も増加傾向であり、情報交換もできている。 職員間の情報交換を更に密にする。学校行事を行うことにより、他学年との交流に馴染んできた。	B	○継続して行う。 ○中央祭(学園祭)を切っ掛けにより絆を深めていく。			
キャリア教育の充実・早期の進路決定	○幅広い視野・職業観の更なる育成 ○進路希望と適性に対する自己理解の更なる促進 ○進路実現に向けての早目の具体的な行動化 ○ボランティア活動や地域交流活動への参加を図る。	○視野がとても狭く、偏っていると同時に職業に関する知識が少ない。 ○自己理解が乏しく、なりたい自分が見えていない生徒が多く見られる。 ○漠然とした目標のため具体的な行動を起こせていない生徒が見られる。 ○地域ボランティアへ積極的に参加する生徒が多くない。	○生徒が幅広い選択肢の中から進路目標を見つけ、その実現のために日々努力している。 ○自己を理解し、理想の自分を見つけている。 ○自らの進路について真剣に考えることで、具体的な行動を起こしている。 ○自ら率先してボランティア活動や地域貢献する姿勢がある。	○職業人講話を実施することにより社会人としてのマナーの習得や職業理解を深める、と同時に視野を広げる。出前授業・学校見学・ボランティア体験を実施することにより進路に関する選択肢の幅を広げる。 ○ハローワークと連携して、定期的に進路面談を実施することにより、自己理解を促し「なりたい自分」を見つける。 ○就職希望者は職場見学・体験を実施する。就職セミナー等にも参加し、就職に関する学習の機会(面接練習・履歴書の書き方・求人表の見方等)を増やし、早目の行動を意識させる。また、進学希望者は興味のある学校へのオープンキャンパス等に積極的に参加する。放課後に中央予備校とタイアップし学力アップを図る。 ○進路とからめてボランティア活動の有意性・有用性を伝えていく。	○職業人講話はできなかった。出前授業については、「年金」、「ライフプラン作成」と2回実施できた。また、ボランティア活動に積極的に参加する生徒が増えた。 ○各種検定の取り組み等、行動することにより自信を付け、更なる目標へと向かう生徒が増えてきた。 ○進学希望者はオープンキャンパスに早い時期から参加出来た。また、就職希望者は就職ガイダンスに参加し、就職試験に向かう姿勢を身につけた。また実際に職場見学に行き進路意識を高め、就職活動を行っている。	B	○9月に職業人講話を実施する。 ○1、2年生もハローワークと連携しガイダンスを実施する。 ○進学希望者は概ね進路を決定している。大学進学希望者は中央予備校と連携して、センター試験対策、模試、面談を行い志望校合格に向けてサポートしていく。 また、就職希望の生徒に対して、ハローワークと連携して面談を行い進路を明確にし、決定していく。			